

2023年5月20日発行

神奈川イグレンの活動状況を伝える機関紙

神奈川イグレンニュース〈第235号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231-0015 横浜市中区尾上町580 神奈川中小企業センタービル7F

TEL/FAX 045-228-7331 <http://www.kanagawa-igren.com>

（目 次）

- インターモールド 2023 東京の報告 (1 頁)
まんでんプロジェクト事務局
- まんでんプロジェクト例会の報告 (2 頁)
まんでんプロジェクト事務局
- 【書 評】 坂本光司著「もっと人を大切にする会社」 (3 頁)
神奈川県異業種連携協議会 専務理事 芝 忠
- 神奈川県異業種連携協議会講演会 (5 頁)
「EV 車の動向と課題」－BYD 社の紹介と課題
BYD ジャパン株式会社相談役 小玉三千春 氏

インターモールド 2023 東京の報告

まんてんプロジェクト事務局

インターモールド 2023 東京が 4 月 12 日(水)から 4 月 15 日(土)まで東京ビッグサイトで開催されました。「まんてんプロジェクト」では、プロジェクトの取り組みや各会員企業の得意技術を紹介する場として活用できると思い、出展を募集したところ、(株)平本精機、新日産ダイヤモンド工業(株)、鈴幸商事(株)、(株)東栄超硬、(株)プライオリティ、(株)トクピ製作所、(株)NAKANO、ユシロ化学工業(株)、第一塗装工業(株)、(株)開明製作所、金属技研(株)、高和電気工業(株)、南相馬航空宇宙産業研究会の 13 社が出展されました。

会場には「まんてんプロジェクト」の区画の近くに「空飛ぶくるま」と呼ばれる自律型無人飛行機の実機「EHang216-S」が展示され関心を集めていました。まんてんプロジェクトの各ブースでは意見交換や情報交換が行なわれ、ビジネスに結びついた案件もありました。4 日間の来場者は、インターモールドや金型展等合わせて計 30,045 名との報告がありました。今回の展示会では 5 年ぶりに開催記念レセプションパーティーが開かれ、会員の出展企業の方々も参加をして楽しい一時を過ごしました。なお、瀧澤会長が各団体の代表者とともに鏡割りに参加し会場を盛り上げました。また、会場では開催 2 日目の 13 日(水)にオープンセミナーが企画され、プロジェクト会員の(有)オービタエンジニアリング代表取締役社長 山口耕司氏が「宇宙産業への参入に向けて」と題して講演をされ、関心を集めていました。

(インターモールド会場)

(空飛ぶ自動車市場する瀧澤会長)



(山口社長講演)

(レセプション鏡割り)



まんてんプロジェクト例会（令和5年4月26日）の報告

まんてんプロジェクト事務局

本年度最初の「まんてんプロジェクト」の例会を4月26日(水)神奈川中小企業センター13階第3会議室で開催しました。開催にあたり瀧澤会長から「まんてんプロジェクト」の本年度最初の例会ですが、今後も新たな展開をしたい旨の挨拶がありました。講演では

- 「我が社の製造部門におけるDXに向けた取り組みと失敗談」と題して新日産ダイヤモンド工業（株） 総務部 次長 近池洋一氏から、製造部門のDXの取り組みを進めたが、パッケージソフトが新日産ダイヤモンド工業の状況にカスタマイズできず稼働しなかった失敗例が紹介され、その対応として横浜市の補助金制度を活用してシステム会社と共同でオリジナルな生産管理システムを開発して工程の一元化や顧客情報の管理ができるようになったとの優位点が述べられました。
- 「RF（電波）を受信するセンサ（マイクロ波・ミリ波放射計）の利用技術」と題してオルイー（株）営業技術部 技術部長 山本朗人氏からRF（電波）の特徴について解説されてから、物質から放射されている熱雑音を受信する「マイクロ波・ミリ波放射計の構成とその利用技術について紹介されました。利用技術として人工衛星に搭載して海面温度や水蒸気量などの地球観測をした結果や地上機器への活用例についても述べられました。
- 「残留応力による製品への影響」と題して、(独法) 神奈川県立産業技術研究所機械・材料技術部 主任研究員 関野晃一氏から加工により発生する残留応力の発生原因と測定法について解説されました。また、残留応力が製品の良否に影響することが事例を元に述べられました。
- 「神奈川大学のハイブリッドロケット開発」と題して、神奈川大学 工学部機械工学科 教授 高野敦氏から神奈川大学の高野研究室で取り組んでいるハイブリッドロケット開発について紹介されました。ハイブリッドロケットはプラスチック樹脂などの固体燃料を液体の酸化剤で燃やして推力とするもので、燃料の保管や移動に専用設備が必要な液体ロケットや固体ロケットと比べて安全性が高く、運用コストが低減できることを述べられました。また、打ち上げの様子や開発した要素部品の紹介がありました。

講演会終了後、恒例の懇親会を行ないました。福島県から来られた（株）カイン精密工業の甲斐根哲夫氏の乾杯の後、講師を交えて和やかな雰囲気の中で懇親会が行われました。

【書評】 坂本光司著「もっと人を大切にする会社」

神奈川県異業種連携協議会 専務理事 芝 忠

坂本光司さんの近著、「もっと人を大切にする会社」は、2022年12月、東京新聞社発行で、同年7月4日から10月22日にかけて東京新聞夕刊に91回連載されたものをまとめたものです。従って「新聞小説」みたいに各回それぞれ独立して読めますので、どこからでもページを開いて読めます。筆者が50年間で8千社を訪問して得た数々の教訓を整理したのですが、いわゆるレポートではなく、筆者自身が素直に感動した感想にあふれています。各社の実例はいままでも「日本でいちばん大切にしたい会社」として何回もきかされていましたが、改めて読んでもまた新たな感激をし、涙なしには読めません。特に今回第4章「私の歩いてきた道」は、筆者の生い立ちを語ったもので、私も長い付き合いの中で初めての内容でした。全体に筆者の半世紀を総合的にまとめたもので、コンパクトですが、読み応えのある一冊です。

人を大切にする経営とは、株主への貢献は一番最後で、最初にまず①社員とその家族、②取引先とその家族、次に③顧客、④地域の住民の方々、最後に⑤株主で欧米流の経営方針とは異なります。基本的にリストラはしない。社長の報酬は社員の5倍程度と言っています。会社の駐車場の順番も、まず、障害者やお客様。社長用が一番はずれ。来客用トイレが駐車場の一番近くに設置されている会社もあります。

定年のない会社や、ケガして出勤できなくても給与を何年も全額支払うところもあります。社員は安心して勤められるので、喜んで改善案や知恵を出しますし、会社周辺や地域の公共的空間の清掃も自発的に行っていますので、地域住民からの支持が絶大です。結果的に売り上げの増大につながっています。とにかく社員重視です。「人本経営」ともいっています。経営者であれば必読文献です。

ところで坂本さんと私との出会いは、お互いに異業種交流を行っており、彼は静岡県中小企業振興公社調査課長として下請け企業のレベルアップのための交流を手掛けていました。私の方は中堅企業の異業種交流として坂本さんのノウハウを大いに参考にさせていただいていました。東京通産局(当時)主催の大手企業と中小企業との出会いの場を1都10県で開催したおりも彼のノウハウを援用して「ビジネスプラザイン東京」として5年間実施しました。私も主催者側の人間の一人として参加しておりましたが、これらの人脈を取り持った日刊工業新聞社の雑誌記者だった塗師哲夫氏(故人)と3人で、「異業種ネットワーク戦略」を1986年に日刊工業新聞社から共同出版しました。その折、坂本さんの焼津の自宅に集まり作業したことが親交をより深め、今日まで繋がっているかもしれません。イグレン(神奈川県異業種グループ連絡会議、当時、現神奈川県異業種連携協議会)の設立総会でも彼に記念講演をお願いしました。ちなみに都道府県別の連合体はやはり静岡県がトップにつくりましたが坂本さんのあとを継ぐ人がいなくて早々に解散してしまいました。二番手で作った神奈川が現在一番古い歴史をもっていることになっています。



(東京新聞 1650 円)

(目次)

まえがきにかえて「人を大切にしたい経営」を追い続ける坂本光司さん

- 第1章 「日本で一番大切にしたい会社」大賞
- 第2章 受賞企業・団体それぞれの持ち味
- 第3章 人を大切にしたい経営学会
- 第4章 私の歩いてきた道
- 第5章 理想的な中小経営への10の提言
- 第6章 忘れ得ぬ会社・人々

神奈川県異業種連携協議会講演会

「EV車の動向と課題」－BYD社の紹介と課題

BYD ジャパン株式会社

相談役 小玉三千春 氏

日時 6月29日（木）14時30分～

会場 神奈川中小企業センター6階大研修室

国際エネルギー機関（IEA）は4月26日、昨年の世界の電気自動車（EV）とプラグインハイブリッド車（PHV）の新車販売台数が、1,000万台を突破したと発表しました。また、先の先進7か国（G7）気候・エネルギー・環境大臣会合では、多様な選択肢で車両の脱炭素化を進めることが確認されるなど、各国の自動車産業の実状を反映し、EV車をめぐる動向が複雑です。しかし、産業構造上大きな位置を占めている自動車産業の今後を考えるためにも、EV車について実情に即した情報を知る必要があります。奮ってご参加ください。

世界でのEV車の動向

1. 日本でのEV車の動向
2. 世界2位の販売実績BYD社の紹介と課題
 - (1) BYD社の紹介－組織と業務内容4月26日
 - (2) BYD社の紹介－豪州アセアン部門組織とBYDJ社の位置づけ
 - (3) BYD社の動向と課題

3. 今後のEV車の課題

参加費（資料代）

- | | |
|------------------------|---------|
| ① 神奈川県異業種連携協議会（イグレン）会員 | 2,000 円 |
| ② 海老名サロンメンバー（イグレン非会員） | 3,000 円 |
| ① ②以外の参加者の方 | 5,000 円 |

（お問合せ・お申込み）

FAX045-228-7331 愛 070-4478-1902 E-mail aikenji1024@gmail.com

お申込み欄

（ご芳名・所属・TEL・email 等ご記入ください。複数のご記入可）

【講演者プロフィール】

1970年から長年いすゞ自動車で大形車の設計・開発管理責任者として国内外の開発に携わり、2000年広州いすゞバス（汽車集団との合弁会社）副社長として初代日本側代表者に赴任し、日本メーカーとして初めて中国で中・大型バスの生産を手掛け国産化を強力に推進する。2004年から日野自動車といすゞ自動車の合弁会社ジェイバス（株）の役員として設計・開発管理、国内外バスビジネスの検討等将来計画策定に携わる。

2017年からBYDJ（株）相談役として豪州・アセアン事業部門の各国対応支援、日本向けの商品開発、インド、フィリピンの工場支援、日本向けEV路線バスの改良・開発指導等を競合他社との比較分析や市場分析を通じて国内ユーザへの支援・指導を実施。